

【成果概要】3-5 局地的豪雨の増加による災害発生リスク評価

調査結果の概要

■ 平成30年度の成果

- これまでの市内での豪雨による影響等を考慮するため、豪雨の雨量頻度の解析及び名古屋市周辺で被害の過去の豪雨事例を解析し、これらの地域での豪雨の主な発生要因を確認した。
- 気候シナリオによる愛知県領域での降雨の傾向を把握し、将来の豪雨における降雨強度の増加傾向が確認された。

■ 明らかとなった課題

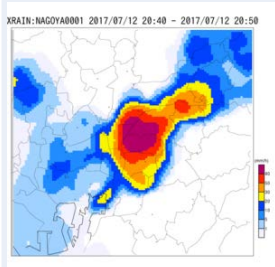
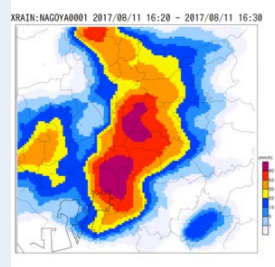
- 気候シナリオの豪雨傾向の変化の適切な表現方法については、さらなる検討が必要である。

■ 平成31年度の調査計画

- 様々な切り口で、気候シナリオにおける局地的豪雨の発生頻度等の解析を行い影響を評価する。
- 都市域での豪雨災害への適応策について文献等の情報を収集する。
- 得られた調査結果により、都市域での豪雨災害への適応策を検討する。

表. 過去の豪雨事例の解析対象例

〔 図はX-RAINデータをもとに日本気象協会作成 〕

日時	2017(H29)年 7月12日	2017(H29)年 8月11日
雨量計による 市内最大 10分雨量	21.5 mm (20:50)	27.0 mm (16:30)
状況等	梅雨前線に伴う暖湿流 の流入 	低気圧通過 

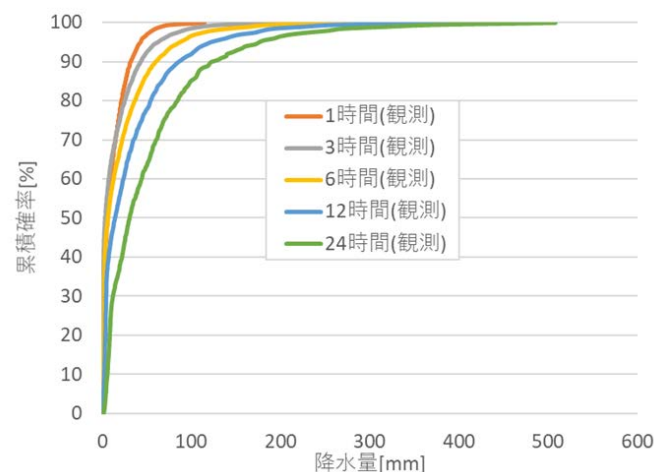


図. 解析雨量の愛知県領域内最大時間降水量の累積確率

〔 国土交通省レーダーアメダス解析雨量データ
をもとに日本気象協会作成 〕